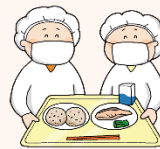


たべものきょうしつ



令和8年1月14日
可也小学校
文責 出利葉

新しい年を迎えました。今年も子どもたちの心身の健やかな成長を願って、安全でおいしい給食づくりに努めてまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



1月24日～30日は

全国学校給食週間



1月24日～30日は全国学校給食週間です。全国学校給食週間は、学校給食の意義や役割などについて理解と関心を高め、より一層の充実をはかることを目的として定められました。

学校給食は、もともと栄養状態を改善させるためのものでした。しかし、現在では児童生徒が生涯にわたって健やかに過ごすために、見る・食べるといった体験を通じて、望ましい食習慣の形成を促す、「生きた教材」としての役割も担っています。本校では、1月26日（月）から30日（金）までの一週間を「給食記念週間」として給食にかかわる方々に感謝する取組を行います。

学校給食のあゆみ

今の給食と比べたり、給食の思い出を話したりしてみませんか？

明治22年 (1889)	昭和20年代 (1945～54)	昭和30年代 (1955～64)	昭和40年代 (1965～74)	昭和50,60年代 (1975～88)	平成・令和 (1989～)
日本で最初の給食は、「おにぎり焼き魚、つけもの」でした。	戦後、海外から届いた食料で給食が再開されました。ミルク、トマトシチューなどが提供されました。	アメリカから給食用の小麦粉やミルクが提供され、パンにミルクの給食スタイルが定着しました。	東京オリンピックの年に、ミルクが牛乳に変わり、主食に「ソフト麺」が登場しました。	米飯給食がはじまりました。それとともに、メニューの種類も増えました。	現在では、栄養バランスだけでなく、旬や地産地消などに配慮した献立づくりが行われています。

感謝して食べよう！



食事のはじまりに「いただきます」、終わりに「ごちそうさま」がきちんと言えていますか。
食事のあいさつは、日本語特有の表現で、日本人が古くから食べ物を敬ったり、感謝したりする気持ちを表現してきた大切な言葉です。

いただきます＝「命」に感謝



私たちが毎日食べているものには、みんな命があり、その命をいただいて私たちは生きています。
「いただきます」は、「大切な命をいただきます」という感謝の気持ちを込めたあいさつです。



ごちそうさま＝「人」に感謝

「ごちそうさま」は、漢字で書くと「ご馳走さま」となります。「馳」も「走」も「忙しく走り回る」という意味です。私たちがいろいろな食べ物を食べることができるのは、たくさんの人が走り回り、一生懸命働いてくださるおかげです。心を込めて「ごちそうさま」を言いたいですね。